銀閣の庭造りに携わった人々（中学校版）

1　世界遺産銀閣

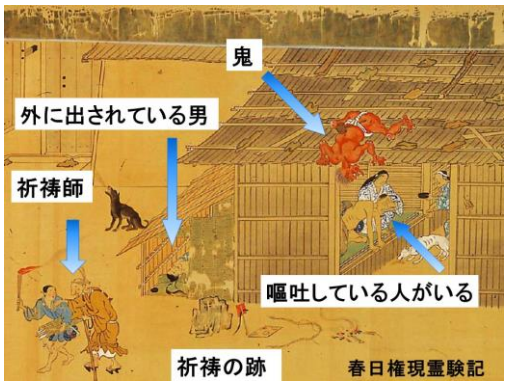
銀閣に代表される室町文化。多くの禅宗寺院の庭を造ったのは、「河原者」と呼ばれ差別されていた人々でした。

なかでも、庭造りの名人といわれた善阿弥は、８代将軍足利義政に、名人としてこよなく愛されました。

有名な銀閣の庭も、彼と彼の子の「小四郎」そしてその孫の「又四郎」の３代によって完成されたといわれています。

2　河原者とは…

河原者と呼ばれた人々が生活していた河原とは、今のように整備工事された河原ではなく、広大な面積をもった場所でした。河原は、天変地異によって自由に流れを変える人間の支配の及ばない土地でした。そして、河原は作物をつくっても水に流される危険性があるため税のかからない土地でした。そこに、地震や風水害で家や財産をなくした人々、ききんや戦乱を逃れた人々が移り住み、田畑を耕し、鳥などを捕って暮らしました。



当時、人々は、人間世界や平穏な日常がこわれるとして、自分たちの知識や考えに及ばないことに、恐怖を抱いていました。その恐怖をもたらすものを「ケガレ」と呼びました。特に恐れていたのは、人間や動物の死です。当時の支配者は、河原に移り住んだ人々に、税を取らない代わりにまちの清掃や警察などの仕事をさせました。清掃は、行き倒れて死んだ人や死んだ動物の後片付けもしなければなりません。また、警察の仕事も犯罪を犯した人の命を、時には奪わなければならなかったので、共に、「ケガレ」にかかわる仕事でした。「ケガレ」を払うには、処理をしたり、きれいにしたりする作業が必要です。この作業を「キヨメ」と呼びました。その「キヨメ」の役目を担ったのが、河原などに住む人たちでした。人間が生活するうえで「キヨメ」は必要なことでしたが、時代が進むにつれ、「キヨメ」役の人々がいつの間にか「ケガレ」に触れるということで差別されるようになりました。また、河原に住む人たちのなかには、清掃や警察の役目を果たすかたわら、芸能や庭造りの仕事を行う人たちがいました。

3　「天下第一」の庭師　善阿弥

銀閣の庭造りに携わった善阿弥の家も、動物の処理や清掃、警察などの役目を担ってきました。善阿弥は「天下第一」の庭師と呼ばれ、当時を代表する多くの庭園を造った人物として、今もその名が広く知られています。庭師としての善阿弥とその息子の小四郎、孫の又四郎、そして弟子たちの技術を高く評価した人々は、彼らを差別することなく庭造りに用い、優れた庭園を造らせました。将軍義政に信頼されていた善阿弥が病に倒れると、義政はわざわざ医者を派遣して薬を与えることまでしました。

しかし、善阿弥は「天下第一」の庭師と呼ばれるようになっても、かつて河原者の代表をしていたことから、差別

して見られることから逃れられませんでした。

4　危険な庭造りを請け負わなければならなかった河原者

銀閣の庭園に、樹齢５００年と書かれた千代の槙と呼ばれる巨大な槙の木が植えられています。この槙の木は、将軍義政の命を受け、河原者たちが高さ3ｍの槙の木２０本を信楽（現在の滋賀県）まで採取しにいったと、記録に残されています。

河原者たちは、信楽山中からこれらの樹木を、枯らさないよう根に重い土をつけたまま京都までおよそ５０kmの道のりを運びました。現在のように、重機もない頃でしたので、苛酷な仕事であったことは間違いありません。また、大きな庭石を修羅と呼ばれる木でできた巨石運搬用のそりに載せて運びましたが、運ぶとき修羅が転覆して死者を出すこともありました。

危険な仕事ですが、この仕事がなければ、河原者の人々はどうなったのでしょうか？

またもとの河原の厳しい差別の生活に戻らなければなりません。

そこで、差別から抜け出すために、もっともしんどい仕事を請け負わなければならなかったのです。銀閣の庭造りは、こうした危険な仕事を、河原者と呼ばれた人々が、下から支えたからこそ出来上がったのです。そして、差別に負けず、心をゆがめることなく、善阿弥や又四郎のように、人として向上する努力を重ねたからこそ、最高の芸術家となったのです。

5　又四郎と周麟の思い

ある日、又四郎は、京都の相国寺の僧侶「周麟」に、次のような話をしました。

「私は、人々から差別される立場にあることを心から悲しいと思います。だから、生き物の命は誓って奪わないようにしているし、目先の利益や欲にまどわされないように自分をいましめています。」

この又四郎の話を聞いて、周麟は次のように言いました。

「又四郎こそ人間である。」

なぜ、周麟はそれほどまでに又四郎を称賛したのでしょう。

又四郎は、動物を大切にする優しい心をもち、祖父の善阿弥が、河原者の貧しい人たちの代表をしていたこともあり、普段から質素な暮らしを心掛けていたのでしょう。このような又四郎の思いを聞いた周麟は、当時の贅沢で私利私欲に駆られていた僧侶より、「差別を受けながらも、差別を跳ね返そうと強く、優しく、質素に生きる又四郎たちこそが、人間の本当の姿ではないか」と感じ、そして自身の日記に又四郎のことを記しています。

当時、多くの人々が、河原者と呼ばれた人々を、関わってはならない存在とか、自分たちとは違う存在などとして、排除、差別していました。

そのような世の中にあって周麟という僧侶の又四郎を見るまなざしについて、改めて考えてみる必要があるのではないでしょうか？

6　今も訪れる人の心を魅了する銀閣の庭園の姿（東求堂同仁斎）

銀閣の一角に、義政が日常的に礼拝するために建てられた東求堂があります。

その東求堂に将軍義政が書いた「同仁斎」という言葉が掲げられています。「同仁斎」とは、「平等に暮らす部屋」という意味です。

「自分たちとは違うと差別する人たち」がいた一方で、その知識や技術、そして人間性を正しく捉えて、差別することなく接した人たちがいました。そんな人たちがいたからこそ、銀閣の庭園は、今も訪れる人の心を魅了するのではないでしょうか。

中学校１年　道徳

銀閣の庭造りに携わった人々　　～略案～

第一時間目

（1）ねらい

・　差別にもかかわらず、善阿弥が偉大な芸術家となった力強い生き方を通して、誰に対しても公正、公平な態度で接し、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする心情を育てる。

学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	教師の支援
1　「銀閣の庭造りに携わった人々」の前半（４まで)を読む。	○　銀閣の庭造りに携わったのは、どのような人たちですか。 ・河原者と呼ばれた人たち ・善阿弥、小四郎、又四郎 ○　河原者と呼ばれた人たちは、どのような人たちですか。 ・地震や風水害で家や財産をなくしたり、ききんや戦乱を逃れたりして、税のかからない河原に移り住んだ人たち。 ・河原で田畑を耕し、鳥などを捕って暮らして生きてきた人たち。	○　銀閣の庭園の写真を見て、課題意識をもつ。 ○　河原者と呼ばれた人たちについて、簡単にまとめる。
2　河原者と呼ばれた人たちが、差別されるようになった理由について話し合う。	○　なぜ、人々は、河原に住む人たちを差別するようになったのですか。 ・「死」のケガレにかかわる仕事をやらされていたから。 ・税を取らない代わりにまちの清掃や警察などの仕事をさせられたから。 ・ケガレに触れる仕事をしていたから。	○　ケガレ意識とは、当時の人々がつくり出した誤った考えであることを通して、偏見の愚かさに気付く。
3　「天下第一」の庭師と呼ばれた善阿弥が差別された理由について話し合う。	○　「天下第一」の庭師と呼ばれた善阿弥が、なぜ、差別されたのですか。 ・動物の処理や清掃、警察などの役目を担ってきた家の出身だから。 ・施し物を受け取って困窮者に分け与える河原者の代表だったから。 ・善阿弥の才能を見ずに、出身とかそれ以外を見る人が多かったから。 ・善阿弥たちを差別するのは、おかしい。	○　将軍義政からも認められていたが、それでも差別を受けていたことから、差別は、「差別する側」の問題であることをとらえる。
4　なぜ、危険な庭造りに従事せざるを得なかったかについて話し合う。	○　なぜ、河原者と呼ばれた人たちは、危険な庭造りに**<u>従事せざるを得なかった</u>**のですか。 ・将軍に命令されるから。 ・他に仕事がないから。 ・庭造りの仕事がなければ、また、河原の厳しい生活に戻らなければならない。	○　銀閣寺の庭園は、河原者と呼ばれる人たちが下から支えたからこそ出来上がったことに気付き、河原者と呼ばれる人たちに対する見方を深める。
5　善阿弥が、「天下第一」の庭師になることができた理由について話し合う。	**◎　なぜ、善阿弥が、「天下第一」の庭師と<u>なることができたのですか</u>。** ・しんどい仕事を、がんばったから。 ・将軍義政が、善阿弥の才能を認めた。	○　<u>差別に負けずに、心をゆがめることなく、努力を積み重ねた善阿弥の姿を心に受け止めて、そ</u>

	・将軍義政が、河原者を差別しなかった。 ・人を差別しない将軍義政の態度は、立派である。 ・善阿弥が、差別に負けず、心をゆがめることなく、努力を積み重ねたから。 ・差別に負けない、善阿弥の生き方はすばらしい。	の姿勢に共感する。

ポイント！！

※　河原者は、差別によってもっともしんどい仕事を請け負わざるを得なかった。
（庭づくりの激しく危険な肉体労働）＝差別のきびしさ

※「なぜ、差別されたか？」ではなく、「差別にもかかわらず、なぜ、彼らは偉大な芸術家となれたか？」（差別をはねのけようとした、生き方に共感させる。）
河原者と呼ばれた人たちに対する尊敬の念　＋イメージ

第二時間目

（1）ねらい

・　又四郎の言葉は、単なる「つぶやき」ではなく、**人を差別する人々に対する強い批判を含んでいる「差別への抗議」であることを理解し、**誰に対しても公正、公平に接し、差別や偏見をなくそうとする態度を育てる。

学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	教師の支援
1　「銀閣の庭造りに携わった人々」の後半（5・6）から又四郎と周麟の思いを読む。	○　なぜ、周麟はそれほどまでに又四郎を称賛したのでしょうか。 ・動物を大切にするやさしい心をもっていたから。 ・祖父の善阿弥が貧しい人の代表だったから、ぜいたくをしないと決めていた。 ・当時の贅沢で私利私欲に駆られていた僧侶より真面目に生きているから。	○　贅沢で私利私欲に駆られていた僧侶より、差別をうけながらも優しく質素に生きる又四郎たちの方が、人間の本当の姿ではないか、と日記に記している周麟の思いを深める。
2　又四郎の思いを見つめ直す。	○　又四郎は、「動物を殺さないし、欲も持たないようにしている」**ことだけ**を本当に言いたかったのだろうか。 ・本当は、差別をすることが、許せないと言いたい。 ・人の心に差別心というものが、あることが悲しい。 ・「差別がある世の中こそ、悲しい」ことを言いたい。	○　**又四郎にとって、差別する人々を恥じ入らせるような行いを積み、仕事をすること、それ以外に差別に抗議する方法はないことに気づかせる。**
3　周麟の人を見るまなざしについて話し合う。	○　周麟は、わたしたちに人をどのように見なければならないといっているのでしょうか。 ・多くの人が、河原者と呼ばれる人たちを差別しているが、一番大事なことは、その人の人間性をどう見るかである。 ・家柄や育ちで人を差別するのは、間違いである。 ・「他の人が差別するから」に惑わされてはい	○　「人は生まれで決まるのではなく、行いで決まる」と考えている周麟の思いを深める。

	けない。 ・人が人を差別することが、当たり前の時代に、差別は間違いだと言える周麟はすばらしい。	
4　今も訪れる人の心を魅了する銀閣の庭園の姿について話し合う。	**◎　なぜ、銀閣の庭園は、今も訪れる人の心を魅了すると思いますか。** ・豊かな文化は、「差別された人」と「差別しなかった人」によって築かれた。 ・差別する人だけなら、銀閣の庭園はなかった。 ・差別をしなかった人の思いが、人の心を魅了する庭園として残っているから。 ・人が平等に過ごせる場所は、見る人の心を魅了する。 ・自分たちも銀閣の庭園のような、誰もが平等に暮らせる社会をつくっていきたい。 ・差別からは、人の心を魅了するものは生まれない。 ・自分たちとは違うからといって差別する考えは今も残っている。そうした間違った考えをなくして、人の心を魅了する社会をつくっていきたい。	○　「自分たちとは違うと差別する人たち」がいた一方で、その知識や技術、そして人間性を正しく捉えて、差別することなく接した人たちがいたからこそ、銀閣の庭園は、世界遺産として人々の心を魅了していることに共感する。

ポイント！！

※　又四郎の言葉を「つぶやき」ではなく、「差別への抗議」としてとらえることで、「差別がある世の中こそ、悲しい」という又四郎の思いに通じ、ひいては、水平社宣言の「すべての人が尊敬されなければならない」という考えに繋がっていく。